

第一條 竹木其他產物ノ公賣ハ豫メ公告シ期日ニ至リ定メタル場所ニ於テ入札ヲ爲
サレモ高札ノ者ニ拂下クルモノトス但立竹木ハ地上現出ノ部分ニ限ルヘシ
第二條 入札人ハ渾テ此規則ヲ遵守ス可シ此規則ニ抵觸シタル入札ハ其効ナシトス
第三條 入札人ハ公賣ノ物件ヲ熟覽シ別紙第一號書式ニ照準シ入札書ヲ差出スヘシ
第四條 左ニ記載シタル者ノ入札ハ採用セス
一 公賣ニ關係アル官吏郡區町村吏及ヒ傭員
一 官林ノ竹木其他產物ヲ拂受其代金息納中ノ者及官林ニ關スル損害賠償金若ク
ハ違約金等ノ辨償ヲ終ヘサル者
一 官林ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ其犯罪ニ係ル物件公賣ノ時
第五條 公賣ニ付スヘキ官林數箇所ナル時ハ一箇所毎ニ一封ニシテ入札ス可シ
第六條 入札人ハ開札ノ席ニ參會ス可シ若シ參會シ難キ者ハ代理人ヲ差出スヘシ本
人又ハ代理人共ニ參會セサル時ハ其入札ハ効ナシトス

第七條 開札ノ前入札人ヲシテ抽籤ニ依リ入札ノ番號ヲ定メシムヘシ
第八條 入札ハ豫定ノ日時ニ至リ入札人ノ面前ニ於テ開封朗讀ノ後即時ニ落札申渡
ス可シ
第九條 入札ノ金額不相當ト認定シタル時ハ其日ノ入札拂ハ取消ス可シ
第十條 高札ニ全金額ノモノアル時ハ番號ノ順次ヲ以テ前番ノ者ニ落札スヘシ
第十一條 入札人落札申渡ヲ受ケタル時ハ直ニ別紙第二號書式ニ照準請書ヲ差出シ
全時ニ落札金額ヲ上納スヘシ
若シ直ニ其金額ヲ上納シ難キ者ハ落札金額ノ内約定金トシテ左ノ割合ヲ以テ即時
ニ之ヲ上納シ其殘金ハ落札ノ日ヨリ二十五日以内ニ上納ス可シ
前項約定金ヲ上納スル場合ニ於テハ別紙第三號書式ニ照準請書ヲ差出スヘシ
約定金割合
落札金額五圓未満ノモノハ五十錢

全 五圓以上、五圓マテ毎ニ五十錢ヲ増ス

第十二條 前條ノ約定金ヲ上納スルモ其殘金ヲ二十五日以内ニ上納セサルモノハ其落札ヲ取消シ既納ノ約定金ハ之ヲ返付セサルモノトス落札人約定金ヲ上納シタル後其落札ノ取消ヲ請求シタル時亦同シ

第十三條 落札人約定金ヲ上納セサル時ハ其落札ヲ取消シ更ニ再入札ヲ行フカ又ハ二番札ノ者ニ落札ヲ申渡スコトアル可シ此場合ニ於テ再入札ノ落札金高初度ノ落札金高ヨリ少キ時又ハ二番札ノ者落札ノ時ハ初度ノ落札人其不足金ヲ償フ可シ若シ再入札ヲ行ヒ留人ナキ時ハ最初落札金額ノ十分一ヲ徵収ス可シ但ニ番札ノ者初度ノ落札金高ヲ以テ其落札ヲ請求スル時ハ此限ニアラス

落札人約定金ヲ上納セシテ其落札ノ取消ヲ請求シタル時亦同シ

第十四條 落札人代金ヲ皆納シタル時ハ其物件ノ引渡ヲ當所ニ申出可シ

第十五條 落札人第三號請書ヲ差出シタル後ハ其代金ヲ皆納セサルモ假リニ其物件

ノ引渡ヲ爲ス可シ但代金ヲ皆納シタル後ニアラサレハ斫伐採取スルコトヲ得ス

第十六條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル時ハ直ニ別紙第四號書式ニ照準請書ヲ差出ス可シ

第十七條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル後其落札ノ物件ハ落札人ニ於テ保管スヘキモノトス若シ其物件ニ關シ異狀損害アルモ當所ハ其責ニ任セス

第十八條 落札人其落札ノ權ヲ他ニ轉賣讓與セントスル時ハ第五號書式ニ照準雙方連署シ當所ニ申出認可ヲ受ク可シ

其認可ヲ受ケタル買受人及讓受人ハ落札人ト同一ニ此規則ヲ遵奉スヘシ

第十九條 落札人ハ當初定メタル山出期限内ニ其物件ヲ官林内ヨリ搬移ス可シ

其期限内ニ搬移セサル者ハ其物件ヲ官収シ既納ノ代金ハ之ヲ返付セサルモノトス但延期ノ許可ヲ得タル時ハ其延期内一日ニ付當初拂下代價二百分ノ一ヲ借地料トシテ上納ス可シ

第二十條 竹木其他產物採取ノ爲メ其森林ニ傷害ヲ生シ又ハ傷害ヲ生セントスル時又ハ落札人及雇人其官林ニ關スル罪ヲ犯シ若クハ此規則ニ違ヒタル所爲アリタル時ハ其採取ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアル可シ但採取ヲ禁止シタル場合ニ於テハ其禁止ニ係ル物件ノ代價ヲ返付ス可シ

第二十一條 第九條及第二十條ノ場合ニ於テ入札人又ハ落札人損害ヲ蒙ルコトアルモ當所ハ其責ニ任セズ

第二十二條 前條々ニ記載シタルノ外別段ノ規則ヲ定メテ之ヲ公告揭示シタル時ハ其規則ニ從フ可シ

明治十七年十月

農商務省山林事務所

第一號書式

第何號(公告ノ番號)

何府何國何郡何町何村地内

字何官林反別何程

一立木(竹)何本(落葉柴草ノ類ハ荷數欸數又ハ何尺繩ノ束數樹實箇數竹籜ノ類ハ例目又ハ貫目等其採取スヘキ見積高ヲ記ス可シ) 此代金何程

右代金ヲ以テ御拂下相成度明治 年 月 日何府縣御達第何號官林產物公賣規則ヲ遵守シ入札仕候也

何府下何國何郡何町何番地

年 月 日

何 之 謹 印

農商務省何山林事務所 御 中

封 第何號(公告番號)

表面 何山林事務所

皮 入札書在中 御 中

裏面

何府何國何郡何町何番地
何區何村何番地
之 誰 印

第二號書式

御請書

(相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘシ) 朱書

一金何程

右ハ今般何國何郡何町地内何官林ノ内何々御拂下ニ付入札仕候處前書金高ヲ以テ落札御申渡相成奉畏候然ル上ハ後日落札ノ物件ニ關シ假令見込違有之候共一切苦情申上間敷依之代金悉皆上納仕候也

年月日

何府下何國何郡何町何番地

何區何村何番地
之 誰 印

農商務省何山林事務所

御中

第三號書式

御請書

(相當之證券印紙ヲ貼用スヘシ) 朱書

一金何程

內金何程

約定金トシテ即時上納

右ハ今般何國何郡何町地内何官林ノ内何々御拂下ニ付入札仕候處前書金高ヲ以テ落札御申渡相成奉畏候就テハ御規則ニ遵ヒ落札金額ノ内約定金トシテ前書ノ通本日相納殘金ノ儀ハ來ル 日限無相違上納可仕候萬一右期日マテニ殘金上納不致落札御取消相成歟又ハ私方ヨリ違約取消等相願候節ハ既納ノ約定金ハ私ノ損失トナシ御下戻テ請求仕間敷候後日落札ノ物件ニ關シ假令見込違有之候共一切苦情申上間敷若シ本人上納金差支候節ハ保證人ニ於テ引受辨償可仕候仍テ保證人連署請書奉差上候也

十七年甲號

〇二二六十一

年月日

何府下何國何郡何町何番地
何縣何國何郡何町何番地
拂受人何之誰印
全

農商務省何山林事務所

御中

第四號書式

御請書

壹號書式ノ通

右御拂下ニ付入札仕候處前書代金ヲ以テ私へ落札御申渡相成現木(竹)(又ハ現品)御引渡相成正ニ請取申候就テハ明治 年 月 日限リ悉皆御林ヨリ拂出可仕候仍テ保

證人連署御請申上候也

年月日

何府下何國何郡何町何番地
何縣何國何郡何町何番地
拂受人何之誰印
全

保證人何之誰印

農商務省何山林事務所

御中

第五號書式

立木(竹)又ハ落葉柴草樹實菌蕈竹籜等(賣(讓)渡願

何府何國何郡何町何番地
何縣何國何郡何町何番地

一立木(竹)何本(落葉柴草樹實菌蕈竹籜類ハ第一號書式ニ照準ス可シ)

此代金何程

十七年甲號

〇二百六十三

右月 日入札ニテ何ノ誰ヘ落札相成候處今般雙方協議ノ上何ノ誰ヘ前書代金ヲ以
賣(讓)渡申度就テハ買(讓)受人ニ於テ官林產物公賣規則ヲ遵奉可仕ヘ勿論賣(讓)渡
人ヨリ兼テ差出置候御請書ノ通リ相心得渾テ違背仕間敷候條御認可被成下度右御認
可ノ上ハ以後何ノ誰保證人ニ相立其責任ハ一切負擔可仕候依テ連署奉願候也

年月日

何府何國何郡何町何番地

賣渡人何之誰印

全

買受人何之誰印

全

保證人何之誰印

農商務省何山林事務所

御中

○甲第百十三號 十七年十二月六日

十七年度地方稅追加豫算ノ儀ニ付本月十六日ヨリ臨時縣會ヲ開ク

○甲第百十四號 十七年十二月十六日

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタルモノニテ適齡ノ當時舊
徵兵令第二十八條第三項第四項若クハ第二十九條第一項ニ據リ嗣子承祖ノ孫及ヒ相
續人ノ名稱ヲ有シ免役ニ屬シ新徵兵令發布後常備年期間ニ在テ戸主隱居シ其跡ヲ繼
キ戸主トナリ前戸主年齢六十歳未滿ナル片ハ徵兵事務條例第五百十三條第五百十四
條前段ニ據リ徵集スヘキ儀ニ候處本年各府縣徵兵抽籤ノ當日迄ニ免役名稱ヲ罷メ更
ニ免役名稱ヲ得タルモノハ其當時届出ヲ爲スモノト否トテ同ハス其儘免役ニ屬シ抽
籤翌日以後ニ係ルモノヨリ新徵兵令第二十二條第七項ニ據リ更ニ徵集スヘキ旨陸軍
省ヨリ達相成候條此旨布達候事

○甲第百十五號 十七年十二月十八日

十七年甲號

〇二百六十四

本縣々立女學校規則別冊ノ通改定候條此旨布達候事(別冊容ス)

○甲第百十六號 十七年十二月十八日

本年(四月)本縣甲第三十八號布達街路取締規則左之通改定候條此旨布達候事

街路取締規則

第一條 凡街路ニ建物ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シ其他標旗招牌物干扣柱扣網等ヲ建設或ハ突出スヘカラス

但釣看板ニ限リ地盤ヲ去ル高サ一丈以上ニシテ最モ堅牢ノ裝置ヲ爲セハ道敷ニ尺迄掲出スルモ妨ケナシ

第二條 居住者其家屋前ノ道敷へ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列突出スヘカラス

但標燈及日除ハ道敷へ一尺ヲ限リ張出スヲ得ヘシ又全道張通シノ日除ハ第一條但書ノ如ク裝置セハ場所ニ依リ許可スルコアルヘシ

第三條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シテ縣

廳へ願出允許ヲ請フヘシ

但該地戸長ニ於テ異議支障ノ有無ヲ願書紙尾ニ記載シ署名押印アルヲ要ス且衛生ニ關スル事項ハ衛生委員ニ於テモ亦同シ

一 路傍ニ床店被篋等ヲ設ケ又ハ路上ニ街燈ヲ建ツトスルモノ

二 市街ノ空地ニ芥溜所ヲ設ケントスルモノ

三 公衆ノ爲メニ路傍ニ指道標又ハ圓圍ヲ設ケントスルモノ

四 路傍ニ井戸又ハ下水ヲ穿チ又ハ之ヲ廢除セントスルモノ

五 街路ニ樹木ヲ植ントスルモノ

六 路傍へ柵欄ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置カントスルモノ

第四條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添へ第六項所轄警察署へ願出願人便宜署又ハ交番所ヲ經由スルモ妨ケナシ允許ヲ請フヘシ

但戸長ノ署名押印ハ前條ニ準ス

- 一 全路張通ノ日除チ爲サントスルモノ
- 二 神佛開扉等廣告ノ爲メニ路傍ニ建札ヲ爲サントスルモノ
- 三 工事ノ爲ニ材木土石類ヲ街路ニ置キ又ハ一時地盤ヲ掘鑿シ又ハ板圍繩張足代等ヲ設ケントスルモノ
- 四 家屋土藏等ヲ移ス爲メ街路ヲ運搬シ及ヒ通行禁止ノ榜示アル場所ヲ出入セントスルモノ
- 五 街路ヘ一時舞臺小屋掛等ヲ設ケントスルモノ
- 六 神輿ヲ巡行シ及ヒ街路ニ軸車又ハ手踊屋臺等ヲ出サントスル者
但祭事ニ付テノ條規ハ此規則ニ關セズ
- 七 公衆ノ用ニ供スル消防其他ノ諸器具ヲ路傍ニ置カントスルモノ
- 八 工事等ノ爲メニ一時道路ノ通行ヲ停止セントスルモノ其半道ノ通行停止牛馬諸車ノ停止モ亦同シ

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄郡役所ヘ願出允許ヲ請フヘシ
但戸長ノ署名押印ハ前條ニ準ス

- 一 街路ニ沿ヒタル私有地ニ家屋ヲ新築又ハ改築セントスルモノ
- 二 並木ヲ植繼カントスルモノ
- 三 町村費又ハ私費ニ係ル道路橋梁ヲ在形ニ依リ修理セントスルモノ
- 第六條 允許ヲ得テ路上ヲ使用シ又ハ掘鑿スルモノハ毀損シタル地盤ヲ其原形ニ復スヘシ

第七條 允許ヲ得テ道路ニ竹木土石類ヲ置クキハ防圍ヲ設ケ且夜中ハ特ニ標識ヲ建

第八條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クモノハ鐵鎖其他強固ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束スヘシ

第九條 街路ニ沿フタル場所ニ薪炭其他ノ物品ヲ堅牢ノ裝置ナクシテ高ク堆積スヘ

カラス

第十條 街路ニ沿フタル建物及ヒ樹木等崩壞傾仆ノ虞アルモノハ速ニ修理毀却若クハ扶植伐採スヘシ

第十一條 雨水ノ路傍へ落ル軒樋ニハ必ス立樋ヲ設クヘシ

第十二條 通行スヘキ場所ニアル危険ノ非溝其他凹所等ハ蓋又ハ防圍ヲ設クヘシ

第十三條 諸車及ヒ牛馬ヲ牽キ又ハ荷物ヲ負擔シテ一時路上ニ休憩スルモノハ路傍ニ避ケテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第十四條 諸車ヲ路上ニ置キ又ハ牛馬其他ノ物件ヲ道路ニ横クヘ又ハ車馬ヲ並ヘ牽テ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

但建物木石等ヲ運搬中不得止一時街路ニ停メ置クモハ路傍ニ片寄せ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 路上ニ佇立シ又ハ小兒ヲ放歩セシメ又ハ軍談輕業其他人寄セテナシ又ハ

紙鳶獨樂羽子手毬等都テ遊戯ヲ爲シ又ハ食物其他ノ商品ヲ羅列シ又ハ晒物干物ヲナシ又ハ氷雪ヲ投棄シテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第十六條 路上ノ樹木ヲ折伐シ又ハ便所街燈等ヲ破毀消滅シ溝渠下水ヲ毀損壅塞スヘカラス

第十七條 道路橋梁等ニ榜示シタル制札指道標ノ類ヲ毀棄汚損スヘカラス

第十八條 癡狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシムヘカラス

第十九條 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ又ハ事ニ託シ及ヒ酩酊シテ路上ニ喧噪シ若クハ醉臥スヘカラス

第二十條 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チ若クハ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第二十一條 市街ニテ公然裸体ヲ露ハスヘカラス

第二十二條 街路ノ掃除ハ兩側居住人ノ官署及官署用地ニ於テ分擔シ其片側ナルハ一類ハ該官署

方ノ居住人ニ於テ負擔スヘシ

但空屋空地ノ周圍ハ其所有主ノ負擔トス

第二十三條 橋上其他家屋ナキ街路ノ掃除ハ地元町村ノ負擔トス
但受持町村ノ定メアル場所ハ従前ノ通タリト雖モ若シ遠隔ナル片ハ常ニ地元ニ

負擔人ヲ置キ又ハ其町村ニ委任シ置クヘシ

第二十四條 掃除負擔ノ場所ハ日常勤テ清潔ニ掃除スヘシ但獸畜ノ死屍アレハ獸畜
死屍取扱規則ニ依リ取片付ヘシ

第二十五條 邸宅前下水ノ浚除ハ該地主官署及官署用地ノ類ハ該官署ニ於テ負擔シ其組合持ナル
ハ當番者ヲ定メテ之ヲ負擔スヘシ

但大下水ノ従前受持ナキ場所ハ該町村ノ負擔トス

第二十六條 下水ハ毎年兩度三四月ノ間十一月ノ間ニ必ス浚除シ若シ淤泥塵芥
等疏通テ壅塞スル片ハ臨時浚除スヘシ

第二十七條 下水浚揚ノ淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ又ハ路傍ニ置クヘカラス

第二十八條 炎天及風日嚴寒ノ候ハ晝間ニ限ルニハ時々路上ニ水ヲ灑クヘシ

但溝渠ノ汚水並汚穢物ヲ洗滌シタル水ヲ洒クヘカラス

第二十九條 街路又ハ溝渠下水ヘ瓦礫塵芥禽獸ノ死屍其他總テ汚穢物ヲ投棄スヘカ
ラス

第三十條 市街ニ於テ厠圍ニアラサル場所ニ大小便ヲナシ又ハ幼兒ヲシテナサシム
ヘカラス

第三十一條 無蓋ノ糞桶ヲ以テ市街ヲ搬運スヘカラス

第三十二條 市街ノ芥溜所及ヒ一般路傍ノ厠圍ハ其持主若クハ擔當人ノ氏名ヲ表記
シ置キ時々清潔ニ掃除スヘシ

第三十三條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分スヘシ

○甲第一百十七號 十七年十二月廿二日

大野

今般岐阜縣益田郡役所部内町村聯合費ヲ以テ飛驒國大野郡高山町於テ縣立學校ヲ設
置シ岐阜縣高山學校ト稱シ岐阜縣華陽學校規則ニ准シ中學科及師範學科生徒ヲ養成
セシメ候條此旨布達候事

○甲第百十八號 十七年十二月廿四日

自今地籍面埋葬地ヲ墓地墳墓地ヲ舊墓地ト改稱スヘシ此旨布達候事

○甲第百十九號 十七年十二月廿四日

同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上福利ヲ增進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不
勘候處往々其目的ヲ達スルヲ能ハサル趣ニ付向後組合取設候モノハ左ノ準則ニ基ツ
キ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組
合ヲ設ケントスル片ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以

テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲スヘシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ撰擧法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

十七年甲號

〇二百六十九

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
 但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アル
 ルハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ
 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スヲ得ス
 第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ
 第七條 規約ヲ改正スルハ更ニ認可ヲ請フ可シ
 第八條 分立又ハ合併スルハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フ可シ
 第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ク其規約ヲ作ルハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ
 但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ
 可シ
 ○甲第百二十號 十七年十二月廿四日
 明治十七年度地方稅收出豫算ノ儀今般臨時縣會ノ議決ヲ經左之通追加候條此旨布達

候事

明治十七年度地方稅收出追加豫算

收入ノ部	地租三分一以内
一金四萬貳千貳百六拾七圓九錢貳厘	
支出ノ部	戶長以下給料旅費
一金四萬貳千貳百六拾七圓九錢貳厘	
内譯	
金七千八百五拾圓	俸 給
金三萬四千四百拾七圓九錢貳厘	雜 給

收入比較過不足ナシ
 ○甲第百二十一號 十七年十二月二十五日
 明治十七年度地方稅追加收支豫算今般本縣甲第百二十號ヲ以テ布達候ニ付テハ地租

割課額左之通ニ候條明治十八年一月一日ノ現在地租額ニヨリ同月三十一日限り納税スヘシ

右布達候事

追加地租割

地租壹圓ニ付

金 四 錢

○甲第百二十二號 十七年十二月廿五日

明治八年第四十八號公達陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭葬并ニ其家族扶助概則ニ依リ扶助料ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戸長ノ證セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出シ右證書引替ニ該金額授受可致但扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出ヘシ若シ其期ヲ過ル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘキ旨陸軍省ヨリ達相成候條此旨布達候事

○甲第百二十三號 十七年十二月廿七日

明治十四年 月 十一 本縣甲第百十七號布達以下數度改正加刪シタル本縣違警罪更ニ左ノ通改定候條此旨布達候事

第十四年甲百十七號ハ第一卷十三類四ニアリ

岐阜縣違警罪

一 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

- 一 街路取締規則ニ違背シタル者
- 二 遊業取締規則ニ違背シタル者
- 三 墓地及埋葬取締規則ニ違背シタル者
- 四 社寺境内其他各所ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者

十七年甲號

〇二百七十一

- 五 神佛祭事ニ托シ人ニ妨害ヲ爲シタル者
- 六 新聞紙及雜誌類ヲ路上ニ讀賣シタル者
- 七 八力車取締規則ニ違背シタル者
- 八 官署ニ届出スシテ公衆ノ集合スヘキ業体ヲ執行シタル者
- 九 正當ノ事由ナクシテ官署ノ呼出ニ應セサル者
- 十 止宿人乗舩人其郷貫氏名ヲ詐稱シタル者
- 十一 旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者
- 十二 住所職業ノ分明ナラサル人ヲ保証シ或ハ宿泊セシメタル者
- 十三 禁厭祈禳ヲ以テ醫療ヲ妨ケ藥劑ヲ差止タル者
- 十四 飲食物ヲ醜造シ若クハ不正ノ物質ヲ混和販賣シタル者
- 十五 病斃死ノ禽獸肉ヲ食用ノ爲メニ販賣シ又ハ之ヲ他人ニ贈與シタル者
- 十六 湯屋營業ニシテ男女混浴セシメタル者

- 十七 他人ノ漁獵場ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十八 魚鳥ヲ捕フルニ有毒品又ハ激烈氣物ヲ用ヒタル者
- 十九 禁止ノ漁具方法ヲ用ヒ又ハ禁漁ノ場所ヲ犯シタル者
- 二十 諸川木材狩下ケノ禁止期限ヲ犯シタル者
- 廿一 堤塘川除ケ其他惡水路ニ妨害ヲ爲シタル者
- 廿二 官許ヲ得スシテ堤塘及堤外地ヘ家屋ヲ築造シタル者
- 廿三 土砂抔止ノ爲ニ設タル作業取締ノ條規ニ違背シタル者
- 廿四 學齡兒童ノ就學ヲ等閑ニ付シタル者但明治十五年本縣甲第六十五號布達ニ
照準ス
- 廿五 酒造及醫麴營業上ノ細則並自家用料酒製造人酒造細則ニ違背シタル者
- 廿六 無鑑札又ハ無届ニシテ地方稅ヲ徵收スヘキ諸般ノ業ヲ爲シタル者

現 岐阜縣布達類纂第二編

〇乙號之部

〇乙第壹號 十七年一月四日

本縣諸達記號之儀自今左之通改定候條此旨告示候事

甲第何號 管内一般へ布達スルモノ

乙第何號 管内達ノ内一時ノ告示ニ止ルモノ

丙第何號 郡役所戸長役場(或ハ學務委員
或ハ衛生委員ヲ加フ)へ併セ達スルモノ

丁第何號 單ニ郡役所へ達スルモノ

戊第何號 單ニ戸長役場へ達スルモノ

〇乙第五號 十七年一月十六日

昨十六年十二月第四拾六號布告徵兵令改正相成候處昨十六年徵兵適齡即チ本年徵集

ス可キ者ハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早諸名簿整頓後ニ係ルヲ以テ本年徵集ス可
キ者ハ舊令ニ據リ徵集致シ新令第十七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十
五條第二項第三十條第二項第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ本年適齡即
チ十八年徵集ス可キ者ヨリ實施相成候旨陸軍省ヨリ達相成候條爲心得此旨告示候事
○乙第七號 十七年一月十八日

當縣下人民ニシテ他府縣下ニ於テ藝娼妓或ハ貸座敷營業ヲナサントスル者ハ自今原
籍郡長ノ承認ヲ受ケ出願候様可致此旨告示候事

○乙第八號 十七年一月十八日

常備兵服役滿期之者退營及ヒ編入等之儀ニ付左記之通各鎮臺へ相達候趣今般陸軍省
ヨリ達相成候條爲心得此旨告示候事

常備軍服役滿期ノ者ハ毎年四月廿日ヨリ五月一日迄ニ退營可爲致例ニ有之候處來十
七年常備服役滿期ノ者ハ詮議ノ次第有之東京大坂府下屯在ノ歩兵ヲ除キ各兵共同年

一月十五日ヨリ同廿日迄ニ歸郷セシメ三月廿一日ヨリ四月廿日迄ノ間ニ於テ現在豫
備兵人員及ヒ歸休兵共三週日間召集復習施行可致尤現在豫備兵人員ヲ常備隊へ編入
シ戰時定員 砲兵ハ常ニ超過スル者ハ召集ニ不及候條十四年編入豫備兵中末番號ノ者
差除キ尙超過スルキハ十五年編入豫備兵中末番號ノ者差除候條可取計此旨相達候事
但東京大坂府下屯在ノ歩兵ハ三月十五日ヨリ同廿日迄ニ歸郷セシメ又常備滿期ノ
者歸郷ノ節ハ諸事豫備兵編入ノ者同様取扱置四月二十日ニ至リ豫備兵編入ノ手續
ヲナスヘシ

○乙第拾五號 十七年一月廿八日

今般古物商取締細則布達候ニ付古物商ヲ營業セントスル者ハ右細則ニ照シ速ニ免許
ヲ願出ヘシ

古物商現今所持スル營業鑑札並取締鑑札トモ速ニ返納スヘシ

紙屑屋寄屋棒手振等ノ營業ニシテ古道具古本古書畫古着又ハ刀劍類ヲ賣買セントス

ルモノ或ハ鍛冶屋鑄物師鑄掛師等ノ營業ニシテ古銅鐵瀆金銀等ヲ賣買セントスル者ハ皆其種類ノ古物商タルモノト心得ヘシ

従前ノ古物商ハ本年一月三十一日以前ニ所持スル商品悉皆其目錄ヲ作り二月廿日限リ所轄警察署ヘ届出ヘシ

古物商未タ組合頭取ノ決定セサル時ハ諸願届書ニ頭取ノ連署ヲ要セス戸長ノ奥印ノミニンテ願届スルヲ得

右告示候事

○乙第貳拾貳號 十七年二月十二日

先般徵兵令改正相成候得共本年徵集スヘキ者ハ昨十六年當省達甲第四拾四號達之通舊徵兵令ニ據リ徵集可致儀ニ付徵兵官員及ヒ官署ノ稱呼其他事務手續ノ儀ハ改正徵兵令中直ニ實施スヘキ條件ニ矛盾スル者ヲ除クノ外舊徵兵事務條例ニ據リ施行可致旨陸軍省ヨリ達相成候條此旨告示候事

○乙第三拾號 十七年二月廿三日

七軍管疆域今般左表之通改定相成従前軍管疆域ニ關シ右ニ矛盾スル者ハ總テ廢止ト可心得旨公達相成候條此旨告示候事

七軍管疆域表

(十七年乙三十號別表)

考備	第七第		第六第		第五第		第四第		第三第		第二第		第一第		軍管鎮臺師管營所分營陸海要塞管國郡區										
	北見	渡島	肥前	豐前	阿波	石見	安藝	若狹	攝津	山城	近江	加賀	尾張	志摩		信濃	尾張	陸前	岩代	陸前	下野	安房	武藏	伊豆	武藏
本表中空位ノ部分ハ追テ撰定ス可キモノトス	根室	釧路	豐後	肥後	讚岐	備後	備前	丹波	播磨	大和	伊賀	能登	丹波	紀伊	上伊奈	東筑摩	西筑摩	柴田	仙臺區	陸前	安房	本所深川二區	上野	相模	武藏
	千島	石高	對馬	日向	伊豫	長門	備前	美作	淡路	河内	紀伊	越中	美濃	飛騨	諏訪七郡	南北安曇	伊勢	越後	磐城	陸中	下總	南北葛飾	信濃	甲斐	武藏

軍	第一軍				軍	第二軍				軍	第三軍						
	東		北			東		南			東		南				
	第一	第二	第一	第二		第一	第二	第一	第二		第一	第二	第一	第二			
陸軍省	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
軍	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東

(十七年三月三十日發給)

○乙第三十一號 十七年二月廿五日
 損傷紙幣交換ノ儀本年三月一日ヨリ各地國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ爲取扱
 候旨大藏省ヨリ達相成候條所持ノ者ハ同所ヘ持參引換ヲ請フヘシ此旨告示候事
 ○乙第六十二號 十七年五月十七日
 豫備軍艦員ノ儀自今豫備役艦員ト改稱相成候旨陸軍省ヨリ達有之候條此旨告示候事
 ○乙第六十四號 十七年五月十九日
 陸軍下士服役規則改正ニ付其服役年期之儀別紙之通陸軍省ヨリ達有之候條此旨告示
 候事

陸軍省達甲第十八號

府 縣

今般達甲第十七號ヲ以テ陸軍下士服役規則改正候處其服役年期ノ儀ハ今後任官ノ
 下士ヨリ施行可致尤現今奉職中ノ下士服役年期ノ儀ハ從前ノ通可相心得此旨相達

十七年乙號

〇二百七十六

候事

明治十七年四月十八日

陸軍卿 山縣有朋

○乙第六拾五號 十七年五月十九日

陸軍下士服役規則別冊之通改正相成候條此旨告示候事

府 縣

陸軍下士服役規則左之通改正候條此旨相達候事

明治十七年四月十八日

陸軍卿 山縣有朋

陸軍下士服役規則

第一條 凡陸軍下士ト稱スルモノハ陸軍武官官等表ニ揭示スル所ノ各兵各部ノ下士ヲ合セ稱スル者トス

第二條 步騎砲工輜重兵下士服役年期ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前七ケ年ハ常備役 現役五ケ年豫備役ニ服シ後五ケ年ハ後備役ニ服セシム

第三條 騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長砲兵監護砲兵監守砲兵監查砲兵諸工長砲兵諸工下長工兵監護會計書記看護長馬醫生軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ初メテ下士ニ任スル日ヨリ滿十二ケ年トス其前九ケ年ハ常備役 現役七ケ年豫備役ニ服シ後三ケ年ハ後備役ニ服セシム

但騎兵蹄鐵工長騎兵蹄鐵工下長軍樂次長軍樂手ノ服役年限ハ騎兵蹄鐵工又ハ樂生ヲ命スル日ヨリ起算ス

憲兵下士ノ服役年限ハ憲兵下士ニ任スル日ヨリ更ニ七ケ年間現役ニ服セシム其役終ルノ後ハ舊兵科ニ服シ初メテ下士ニ任スル日ヨリ算シ十二ケ年ニ滿テサルモノハ後備役ニ服セシム

第四條 豫備兵中ノ兵卒ヨリ豫備役ノ下士ニ任スル者ハ兵卒中豫備服役ノ日數ヲ通算シテ四ケ年間服役ノ後尙ホ五ケ年間後備役ニ服セシム
後備役中ノ兵卒ヨリ後備役ノ下士ニ任スル者ハ兵卒中後備服役ノ日數ヲ通算シ

十七年乙號

〇二百七十七

テ五ヶ年間後備役ニ服セシム

第五條 常備現役満期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ詮議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第六條 前條再服役ハ第二條ノ下士ニ在テハ四ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年ヲ以テ一期トス其再服役満期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ詮議ノ上之ヲ許ス

但再服役志願ノ者第二條ノ下士ニ在テハ四ヶ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年未滿ニシテ年限定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第七條 第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年第三條ノ下士ニ在テハ五ヶ年再服役ノ後其役ヲ免除スル者ハ後備役ニ服セサルヲ法トス然レモ後備軍驅員タラシコトヲ請フ者其年限ヲ定メ願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許ス

第八條 常備現役中疾病ノ故ニ非スシテ其役ヲ免除スル者第二條ノ下士ニ在テハ

服役五ヶ年未滿第三條ノ下士ニ在テハ服役七ヶ年未滿ナレハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セン日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ九ヶ年間服役ノ後尙ホ第二條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年間後備役ニ服セシム

第九條 再服役中疾病ノ故ニアラスシテ其役ヲ免除スル者服役二ヶ年未滿ナレハ直ニ豫備役ヲ命シ其現役ニ服セン日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ九ヶ年間服役ノ後尙ホ第二條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ三ヶ年間後備役ニ服セシム

第十條 再服役中疾病ノ故ニアラスシテ其役ヲ免除スル者服役二ヶ年以上ナレハ直ニ後備役ヲ命シ其再役ニ服セン日數ト通算シ第二條ノ下士ニ在テハ七ヶ年間第三條ノ下士ニ在テハ五ヶ年間ノ役ニ服セシム

第十一條 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ

日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

但官職ヲ失ヒ兵卒トナル者及ヒ兵卒トナリタル者行政ノ處分ヲ以テ原官ニ服シタル者ノ前役(刑期中及ヒ逃亡中)ノ日數ハ之ヲ除クハ之ヲ算入セス

第十二條 第二條ノ下士ニシテ第三條ノ下士(憲兵ハ)ニ第三條ノ下士ニシテ第二條ノ下士ニ轉スル者ハ前役ヲ通算シ其服役年期ニ應シ常備或ハ後備役ニ服セシム

第十三條 常備現役中ハ自己ノ望ニ依リテ他ノ仕官ヲ求ムルヲ得サルノミナラス假令疾病ニ罹ルト雖モ陸軍醫官ノ診斷ニ依ラスシテ自ヲ免除ヲ請フテ得ス

第十四條 常備現役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ父兄又ハ家事擔當ノ者死亡シ或ハ癡疾老羸又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ在役者ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ失フカ如キ己ムヲ得サル事故ヲ生スル者ハ詮議ノ上免除スルコトアルヘシ

但常備現役中養子分家又ハ他家相續人トナリ本條ノ事故ヲ生スル者ハ免除ノ詮議ニ及ハス

第十五條 前條ノ如キ己ムヲ得サル事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親族(二名以上)連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戶長并ニ郡(區)長及管轄廳ノ與書證印ニ尙ホ府(縣)郡(區)駐在官ノ與書證印ヲ要シ家族書(癡疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書又重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫)ヲ添ヘ本人ノ所管へ願出ツヘシ

第十六條 豫備並ニ後備服役中ノ下士ハ本籍ニ歸住シ地方所管鎮臺ノ統轄ニ屬シ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス又平生ニ在テハ復習ノ爲メ召集スルモノトス

第十七條 下士各服役ノ期限己ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ

但本條ニ據リ延期シタル後豫備役或ハ後備役ヲ命スル者其服役ハ前役滿期ノ

日ヨリ之ヲ起算スヘシ

○乙第八十八號 十七年六月十九日

豫備兵ノ儀徵兵令第十三條ニ據リ毎年技藝復習ノ爲メ召集可致之處來十八年ハ召集不致點呼ノニ後備兵點呼同時ニ施行シ後備兵復習ノ儀ハ追テ何分相違候迄從前之通施行セサル儀ト心得ヘテ旨陸軍省ヨリ達相成候條此旨告示候事

○乙第百一號 十七年七月十一日

海軍下士服役規則別紙之通被相定候條此旨告示候事

海軍下士服役規則

第一條 海軍下士ノ現役年期ハ左ノ如シ

第一 卒ヨリ下士ニ任シタル者ハ初メ下士ニ任シタル日ヨリ滿七ケ年

第二 直ニ下士ニ任シタル者ハ其初任ノ日ヨリ滿十二ケ年

第三 樂隊下士ハ樂生ヲ命シタル日ヨリ起算シ滿十二ケ年

第二條 前條第一項ニ相當スル者ト雖モ其五等卒準卒及十七歳未滿ノ服役年數ヲ除

キ卒ノ服役年數ヲ通算シテ十二ケ年ニ未滿ノ者ハ滿十二ケ年迄服役セシム

第三條 掌砲證狀授與ノ者ハ授與ノ日ヨリ五ケ年間ハ服役滿期ニ至ルト雖モ服役ヲ

免セス

第四條 服役滿期ノ後尙一ケ年以上ノ服役ヲ願フ者ハ詮議ノ上之ヲ許ス

第五條 處刑及逃亡中ノ日數ハ服役年數ニ算入スルコトナシ

第六條 服役年期中ハ自己ノ願ニ因テ服役ヲ免スルコトナシ然レモ一家ノ生計ヲ失フ

カ如キ不得止事故アル者ハ本人親族二名以上連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戶長那區長及地方廳ノ與書證印ヲ受ケ戶籍明細書父兄等ノ疾病ニ原因スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ願出ル片ハ詮議ノ上服役ヲ免スルコトアルヘシ

但服役中養子分家又ハ他家相續人トナリ本條ノ事故ヲ生シタル者ハ詮議ニ及ハス

第七條 服役中父母ノ重病或ハ一家ノ安危ニ係ル等ノ事故アル者其事由ヲ詳記シ病
ハ醫師ノ診
斷書ヲ添ヘ願出ル片ハ詮議ノ上往復ヲ除キ三十日以内ノ歸省ヲ許ス

第八條 服役滿期ノ者ト雖モ航海中又ハ戰時或ハ事變ニ際スル片ハ免役ヲ延期スル
コトアルヘシ

○乙第二百二十七號 十七年九月十日

中學校師範學校教員免許規程文部省ニ於テ左之通被相定候條志願之者ハ毎年十一月
限履歷書相添本縣ヘ願出ヘシ此旨告示候事

中學校師範學校教員免許規程

第一條 中學校師範學科若クハ大學科ノ卒業證書ヲ有セシテ中學校師範學校ノ教員
タラント欲スル者ニハ品行學力等檢定ノ上文部省ヨリ免許狀ヲ授與スルモノトス
第二條 學力ハ左ノ一學科若クハ數學科ニ就テ檢定スルモノトス
但該學科ノ授業法ヲモ併セテ檢定スルモノトス

修身 和文 漢文 英語 佛語 獨語 算術 代數幾何 三角法 代數幾何 重
學 測量 天文 生理 動物 植物 金石 地質 物理 化學 地理 歷史 經
濟 本邦法令 心理 論理 教育學 習字 圖畫 記簿 唱歌 體操 農業 工
業 商業

第三條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ルモノトス

但左ノ項ニ該當スル者ハ本文ノ例ニアラス

- 一 碩學ニシテ智徳アリ修身科教授ノ任ニ適スル者
- 一 多年教員ノ職ニ從事シ其學科教授ノ任ニ適スル者
- 一 某學科ノ卒業證書ヲ有シ其教授ノ任ニ適スル者
- 一 農業工業商業其他ノ學術ニ長シ其教授ノ任ニ適スル者

第四條 免許狀ヲ有スルモノハ中學校師範學校ニ於テ該免許狀ニ記載シタル學科ノ
教員タルコトヲ得

第五條 三學科以上ノ免許狀ヲ有スル者ハ文部省明治十六年七月第貳號達府縣立師範學校通則第六條及明治十七年一月第貳號達中學校通則第四條ノ教員ニ代用スルヲ許可スルコトアルヘシ

第六條 免許狀ヲ受領セント欲スル者アル片ハ府知事縣令ニ於テ毎年十二月限り其願書履歷書ヲ取纏メ品行等ヲ審査シ意見ヲ付シテ文部卿ニ具申スヘシ

第七條 學力ノ試験ハ試験委員ヲシテ毎年三月東京ニ於テ執行セシムルモノトス但時宜ニヨリ他ノ地方ニ於テ試験スルコトアルヘシ

第八條 免許狀ヲ有スル者品行不正ノ証跡アルトキハ其免許狀ヲ沒收スルモノトス但府知事縣令ニ於テ本文ノ處分ヲ要スル者アリト認ムルトキハ文部卿ニ具申ス

免許狀書式

免許狀

省	何府縣族籍
印	姓名
	何年何ヶ月
	右ハ品行學力等檢定ノ上(中學校師範學校)(中學校)(師範學校)何學科ノ教員タルコトヲ免許スルモノ也
明治何年何月何日	文部省
番號	

○乙第百三拾號 十七年九月廿六日

今般太政官第貳拾壹號ヲ以テ海軍志願兵徵募規則第拾貳條中改正ノ儀御布達相成候ニ付テハ下士家族扶助金ノ義モ同様相心得ヘシ尤現今服役中ノ者滿期迄ハ従前ノ通給與シ金額ハ改正ノ期月ヲ以下附スヘキ旨海軍省ヨリ達相成候條此旨告示候事

十七年乙號

○二百八十二

○乙第百五拾壹號 十七年十一月廿二日

現役輜重輸卒在郷中及補充員并ニ第一豫備徵員服役中身上異動届出方或ハ番號割符訂正請求方等ノ義自今左之通り相定候旨名古屋鎮臺ヨリ照會越候條此旨告示候事
一現役輜重輸卒在郷中身上之異動ヲ生スル片ハ徵兵事務條例第九拾六條ニ依リ届出ヘシ

但番號割符ノ訂正ヲ要スル片ハ本文届書ヘ戸籍寫ト番號割符ヲ添ヘ差出スヘシ
一補充員及ヒ第一豫備徵員身上ノ異動ヲ生スル片ハ徵兵事務條例第九拾六條及第九拾九條ノ届出ヲナス片番號割符ノ訂正ヲ要スルモノハ該届書ニ戸籍寫ト番號割符ヲ添ヘ差出スヘシ

十七年甲號正誤

四丁	裏面 六行	六敷ハ六校ノ誤
六丁	表面 初行	水田村ノ下字楠ケ瀬ヲ除クノ七字ヲ脱ス
九丁	裏面 九行	岩西道ハ西岩道ノ倒植
全丁	全 全行	二村ハ二校ノ誤
廿二丁	裏面 七行	峰屋ハ峰屋ノ誤
廿八丁	裏面 初行	退人ハ退任ノ誤
廿九丁	表面 初行	賣買ハ商買ノ誤
三十丁	表面 二行	請書ニノニハチノ誤
五十四丁	表面 三行	○ハ衍
百十三丁	表面 末行	轉ハ移ノ誤
百十四丁	全 書式中	何ノ下程ヲ脱ス

百廿四丁	裏面	十行	號ハ條ノ誤
百四十二丁	全	七行	掲記ノ上左ニ○ニ字ヲ脱ス
百五十七丁	表面	末行	内ハ境ノ下ニアルヘキ誤
百六十八丁	裏面	六行	檣ハ檻ノ誤
二百四丁	表面	十一行	外ハ歩ノ併行ニハ○歩ヲ脱ス
二百卅七丁	裏面	四行	取調ノ下候ヲ脱ス
二百卅九丁	裏面	二行	此反別ノ此ハ衍
二百四十丁	表面	十一行	地價ハ地租ノ誤
二百五十丁	裏面	五行	設置ハ設立ノ誤
二百七十二丁	表面	五行	惡ノ上用ヲ脱ス

